

令和元年度 中国地方建設技術開発交流会 質問及び回答

課題名：多機能型排水性舗装（FFP）による凍結抑制ならびに交通安全対策等について

発表者：(株) ガイアート 中国支店 大田 佳奈

《質問1》

名阪国道での連続施工において経年観測等は実施されていますか？

されていれば、公表されていますか？

《回答》

昨年、すべり抵抗に関する社内試験を実施しています。なお、公表はしておりません。

《質問2》

高速道路のハイブリッド舗装との違いは？

メリット+αなどあれば教えてください

《回答》

大きな違いは表面の構造です。高速道路のハイブリッド舗装は、アスファルトバインダーのダレの性質を利用し、表面の骨材を露出させた凹凸形状に対し、FFPは弊社独自で開発したフィニッシャーで敷き均すことにより、上部に10mm程度の空隙を有する排水層を確保し、更に表面に縦溝粗面を形成しています。

また、すべり抵抗性試験により、縦すべりは同程度ですが、横すべりに対し優位性があります。

その他、騒音低減や視認性向上の効果もあります。

《質問3》

表面は密度が低いため強度上の問題はないのか？

排水性舗装の場合表面密度を抑えて空洞部分が大きいのと思われるのでこのような質問をさせてもらいました。

摩耗や骨材の剥奪など（供用年数）のことが気になりました。

《回答》

特殊なバインダーを使用している為、強度は高くなっています。

また、実際に骨材飛散に対する抵抗性を示す試験も実施しており、排水性舗装のねじり骨材飛散率は20.2%に対し、FFPは0.4%～0.7%で、密粒改質Ⅱ型（0.5%）と同等の強度となっています。

また、開発して8年目ですが、骨材の剥離飛散や補修等はありません。